

土木學會第1回年次學術講演會講演

(發電水力, 河川及港灣部 No. 12)

大阪港の擴張計畫に就て

會員 内山新之助*

1. 序言 輓近大阪港は異常な發展をなし、殊に外國貿易に於ける其の躍進振りは實に驚異的である。今日國際貿易の不振と國際關係不安の重圧下にあり乍ら、尙且つ大阪商品が世界各地に其の販路を開拓しつつある事は、邦家の爲慶祝すべき現象にして、之等が何れも大阪港を其の門戸として取扱はれる事を思ふ時、大阪港の使命の重大なるを痛感する次第である。

大阪港は神戸、横濱兩港の國港として經營せられるに反し、明治元年開港以來市營の港として今日を築き上げたのであつて、其の間市の努力の偉大なるものあるを感じずには居られない。而して大阪港は今日の設備にて満足と云ふわけではなく、尙將來改良擴充すべき多くのものを持つてゐる。

大阪港は明治 30 年修築工事着手以來今日に至る約 40 年の間に、修築工事費 75 000 000 円、維持經營費 10 000 000 円、公債元利支拂 71 000 000 円、合計 156 000 000 円を投じて漸く今日の設備を見るに至つたのであつて、第 2 次修築計畫の全部を完成するには尙巨額の資財を要するは勿論なるも、今後利用の趨勢に順応し財政を案配して適宜各種の施設の充實を計らねばならない。

次に大阪港の現状並に將來の事業計畫に就て大要を述べ度いと思ふ。

2. 港灣設備 今日迄に出來た施設の大要は次の様である。

- (1) 防波堤；南北防波堤及内港防波堤の總延長 8 688 m, 波除堤 1 825 m.
- (2) 港内水面積；6 550 000 m². (3) 港内水深；干潮面下 9 m. (4) 繫船浮標；30 個.
- (5) 棧橋及繫船岸；埠頭大棧橋、天保山棧橋、第 1 號、第 2 號、第 6 號、第 7 號及第 8 號各繫船岸、櫻島棧橋、梅町棧橋等、以上の總延長 4 738 m, (6) 曳船其他；曳船、網取、船舶給水、船舶塵埃搬出等の設備.
- (7) 埋立地面積；4 700 000 m², 工場、店舗、住宅、貿易地帯、其他道路、鉄道及運河等に利用.
- (8) 陸上設備；沿岸貿易地帯には、市營又は民營の上屋倉庫を建設し、起重機を所々に配置して内外貿易の荷捌或は保管に供する。(9) 鉄道連絡；省線西成線及臨港線は棧橋、繫船岸に連絡し、海陸運輸の連絡を期する。

3. 利用の狀況 昭和 10 年中に大阪港で扱はれた貨物及出入船舶の數は次の様である。

入港船舶：艘數 191 897 艘、噸數 40 658 723 t.

貨物：總噸數 25 048 225 t；内入貨 18 175 036 t, 出貨 6 872 189 t.

價格 4 111 556 140 円；内入貨 2 001 265 807 円, 出貨 2 110 293 333 円。

即ち噸量に於て 11 301 847 t の入超を、價格に於て 109 024 526 円の出超を示すのであつて、之は大阪港が茲數十年來辿り來つた不動の情勢である。

4. 第 2 次修築計畫 大阪港利用の度は市勢の進展、事業の進捗、設備の充實に從ひ逐年異數の増加を來し、第 1 期工事の竣工期に於ては其の全設備を以てするも尙不足を告ぐべき狀勢を呈し、益々各種施設の擴張改善を要する事になつたので、第 1 期事業の竣成(昭和 4 年 3 月)に先だち、昭和 2 年内務省臨時港灣調査會の議を経て第 2 次修築計畫を決定したのである。之は南港、北港及神崎川尻埋立等の築港計畫にして、之が完成の曉には

* 大阪市港灣部長 工学士 (講演せず)

水面積は現在の約 2 倍半となり、大阪港將來の工事施設の基準をなす根本計畫である。

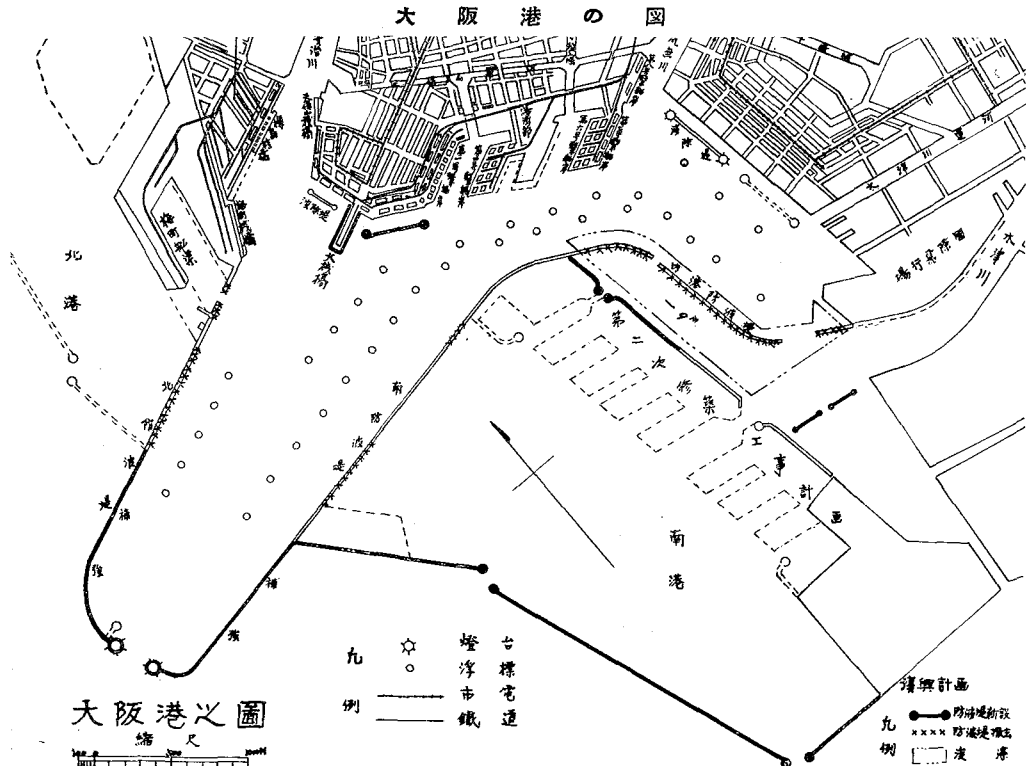
5. 第 2 次 第 1 期工事 前掲第 2 次修築計畫の全部を施工する事は、巨億の資財と長期に亙る異常な努力を要する大事業にして、大阪市の財政を以てするも直に之を施工する事は頗る困難であるから、先づ其の急施を要すべき部分を実施する事とした。之を第 2 次 第 1 期工事と稱し、昭和 4 年度より着手し昭和 12 年度を以て竣工の豫定にして、其の概要は次の様である。

- (1) 第 2 突堤の築設 (第 5 繫船岸の築造), (2) 荷揚場 (第 2 突堤の先端及其の基部), (3) 第 8 號繫船岸の築造,
- (4) 木津川中防波堤の築設, (5) 内港防波堤の 1 部撤去, (6) 港内 1 部の浚渫, (7) 北海岸通地先の波除堤の築造,
- (8) 各繫船岸背面の道路, 鉄道及下水道の敷設, (9) 木津川運河に可動橋 (大船橋) 架設, (10) 施工年度; 昭和 4~12 年度, (11) 工費; 9 160 000 円。

6. 南港町埋立工事 住吉區平林町地先大和川尻埋立工事にして、港灣設備其の他一般の利用に供するものであり、現在木津川尻にある大阪飛行場を此の地に移転する事になつてゐる。

- (1) 埋立面積; 915 000 m², (2) 埋立地の地盤面; 平均朔望干潮面上 3.5 m
- (3) 工期; 昭和 8~16 年度, (4) 工費; 5 220 000 円

7. 大阪港復興工事 昭和 9 年 9 月 21 日近畿一帯を襲つた超記録的猛颶風と之に伴つて溢來した高潮とにより、大阪港は其の第一撃を加へられた爲に、今日迄 10 年の歳月と 1 億餘円の巨費とを以て築き上げた港灣設備は殆ど壊滅に近い迄に痛しい慘害を蒙つたのである。従つて大阪市の直に応急修理をなすと共に、尙進んで將來の天災地禍に備へる策を講じ、更に向上の一途を躍進しつゝある我大阪港の發展に資し、以て大阪市の自衛上將又市勢の發展を期する上に於て、正に必須の緊要事たと共に邦家に對する當然の責務なりと確信し、大阪港第 2 次



修築計畫に則り復興事業を定め、政府補助の下に總工費 23 800 000 円を以て昭和 14 年度完成の豫定にて昭和 9 年 12 月工事に着手し、目下鋭意其の進行の道程にある次第である。其の工事の概要は次の様である。

- (1) 南港防波堤の築設；南港の外廓に築設し、其の延長 3 995 m、
- (2) 既設南北防波堤の補強；既設南北防波堤尖端部を改造するものにして、其の延長 2 702 m、
- (3) 波除堤の築設；木津川沖貯木場及南海岸通地先に築設し、其の延長 1 601 m、
- (4) 既設防波堤暫定復舊；既設南北防波堤の一時復舊にして、其の延長 3 100 m、
- (5) 繫船岸の築設及修理；大棧橋を撤去し、幅員 100 m、延長 350 m の突堤に改造し、櫻島棧橋其の他の修理をなす。
- (6) 内港防波堤の撤去；既設内港防波堤を撤去し、水域の擴張、泊地の増大を計る。
- (7) 貯木場の施設；災禍の跡に鑑み、完全な貯木場設備の必要を痛感した。
- (8) 小艇溜場の施設；同上の理由により天保山運河其の他の擴張をなす。
- (9) 繫船浮標；高潮に備ふべく強力な繫船浮標を増置する。
- (10) 器具機械；本工事遂行に必要な船艇其の他の器具機械を増設する。
- (11) 附帯工事其の他； 鉄道、道路其の他の工事。

北港修築工事は新淀川以南安治川以北の海岸に施工するものにてし、約 30 萬坪の埋立工事と 3 000 m の防波堤築造が其の主要な工事であり、工事費 12 000 000 円を以て昭和 6 年より同 16 年に至る 10 ケ年継続事業として北港株式會社に於て施工中である。